「水面をみつめよう」

附属鎌倉小学校２００６年度５年１組担任　高松智行

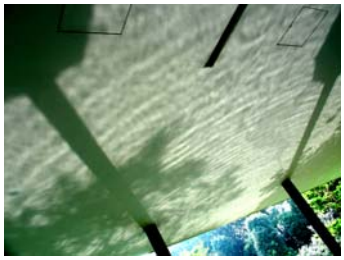
5 年 1 組では、よくみることの日常化を目指して，週 1 回 20 分程度の鑑賞の時間を取り入れた。1 学期は作品の複製を通しての鑑賞だったが，2 学期になり本物の作品をみたいと，鶴岡八幡宮隣にある神奈川県立近代美術館鎌倉に何度かでかけた。やはり本物の作品からは感じるものが多く，大半の子どもが 1 日作品と向き合って，黙々とワークシートに言葉をひろってた。ある子どもは同じ作品の前で 2 時間近くもすわりこみ，ワークシートが真っ黒になるまで言葉をひろってた。作品はどれもみごたえのあるものだったが，中でも子どもの目を釘付けにしたのが，美術館外の平家池に面したテラスだった。平家池の水面に日光が射し，その跳ね返りが池の中まで張り出した美術館の天井に見事に映し出されていたのだ。学校に戻ってからも水面は子どもの話題になった。そこで後日，雨の日と晴れの日の 2 回美術館を訪れ，水面を鑑賞して，言葉をひろう作業をした。以下は子どもが水面からひろった言葉である。

「水面」からひろった言葉

・水面は周りの景色，水面の下にあるもの，水面に浮かぶものが集まってできている・天気や時間で様子が違う・石を放り込むと空を壊すことができる・波紋の形は水面に触れるものの形で変わってくる・水面は風の道を感じさせる・風の強弱で水面の模様がいろいろ変わる・雨の波紋がきれい・ゆったり流れたり，早く流れたり，止まったりしている・風と一緒に水も動く・水は汚くても葉の上の水滴はきれい・波紋はだんだん広がって大きくなる・水面は鏡のようだ・波紋の形は水面に触れるものの形で変わってくる・水は汚くても天井に映る波紋はきれい・晴れの日と曇りの日では感じる深さが違う・遠くの水面は 1 色だけど近くの水面はたくさんの色がある・葉の上の水滴が葉の緑になってきれいに見える・水を見ていると癒される・水面に風の道ができるとその道に沿って木の枝や葉が進んでいく・水面は空気と水の壁のようで，その壁は誰も気付かないくらい薄くて弱い・雨がつくる波紋がピアノの演奏のよう・絶えず水面は動いている・波紋と波紋がぶつかるとまたきれいな模様ができる・水面に映る美術館をみてあらためて美術館の存在を確認できた・水は生き物がすめる作品・風が吹くと葉がダンスをしているみたい　…など

鑑賞の対象は，何も美術作品だけではない。身のまわりにいつも当たり前のようにあるものでも，よくみることで新しい発見がある。もし，日常の様々なものの中に美を見出すことができれば，恐らくその人の生活はより豊かなものになるだろう。そうした意味で，美術館で多くの児童が「水面」に目を向けたことは，とても大切にしたい出来事だった。水は生命の源であり，時代や国の違いをこえて誰にでも共感できるものであり，かつては水を描くことに生涯をかけた画家もいたほどである。

したがって本題材では，水面をみつめ，絵や立体に表現することでさらに水面の魅力に迫ってほしい、そしてその鑑賞や表現を通して造形活動に親しむことはもちろん，今後日常生活の中で，身のまわりものにもじっくり目を向けてみようとする姿勢に少しでもつながればと考えた。



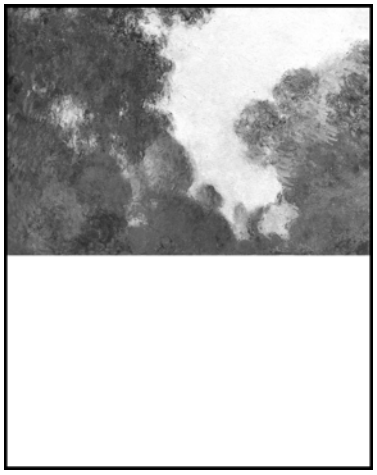
○活動の流れ

鎌倉館へ行こう(2)
近代美術館から見える平家池の水面を鑑賞し，ひろった言葉をみんなで共有する。

名画の水面を鑑賞しよう(1)
モネ，シスレー，福田平八郎，山口蓬春らの作品の水面部分だけを鑑賞し，それぞれの画家の色づかいや筆づかい，描きこまれたものをよくみてたくさんのことを想像した。その結果，水面だけで季節や温度，時間，天気，風向き，音，周りの風景…などたくさんのことが語れることを知る。

表現したい水面の構想を練ろう(0.5)
自分がどんな水面を表現したいか，その表現した水面で何を語りたいか，その表現のためにはどんな色づかいや筆づかいをすればいいかなど，作品の構想を練る。

名画の中の水面を描こう(1.5)
モネ，シスレー，福田平八郎，山口蓬春らの作品に描かれた風景をよくみて，空白部分の水面を描く。



水面を液体粘土でつくろう(1)
どんな様子の水面を表現したいのか，イメージをもって液体粘土で水面をつくる。

つくった水面を手でよくみよう(1)
目を閉じて自分や仲間の作品を手で触り，水面の様子を読み取った。手でよくみることを知る。

イメージをもって水面に着色しよう(2)
どんな様子の水面を表現したいのか，イメージをもって液体粘土でつくった水面に自分なりに工夫して着色をする。

作品をもって再度
蓮池にでかけた

お互いの作品を鑑賞しよう(1)
お互いの作品にこめられた思いを感じ，表現の工夫やよさをみつける。